

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(京都府)

実施主体名	京都府農林水産物・加工品輸出促進協議会 宇治茶部会
参画事業者	京都府、京都やましろ農協、宇治市茶生産組合、京都丹の国農協、京丹後茶生産組合、宇治茶部会所属茶商、京都府茶協同組合、全農京都府本部、京都府茶業会議所
対象品目 対象国・地域	茶：北米、ヨーロッパ

推進体制の構築

- 輸出支援プラットフォームと連携し、輸出先国でのマーケティング情報や展示会開催情報の収集、輸出における貿易実務や効果的なプロモーション等の指導・助言の受入れ
- 輸出向け及びインバウンド向け商品開発を行うとともに、輸出事業者に対し、海外バイヤー向けの販促資料の作成、越境ECサイトの取組や海外展示会への出展を支援

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
茶	301	400

生産の転換

- 山城、中丹、丹後地域の輸出実証圃15か所で北米向け減農薬栽培体系によって栽培実証し、残留農薬分析を行うとともに、慣行栽培と遜色のない高品質茶の栽培が可能か評価を実施
- 有機栽培の輸出実証圃を府内6か所に設け、残留農薬の影響を調査するとともに、高品質な有機茶の栽培体系について検討し、有機茶栽培の普及に向けて、成分分析や品質評価等により検証・改善を実施
- 府内全域において、より広く輸出向け生産体系への転換方法を普及するため、各産地の茶指導者が集まり、蓄積したデータや防除暦作成に関する課題を持ち寄り、その対応策について情報交換し、防除暦のブラッシュアップを実施
- 専門家を招き、輸出実務、有機栽培、GAP等に関する「宇治茶輸出研修会」を開催
- 国際水準GAP指導員の養成や、宇治茶部会員による国際水準GAP等の先進産地視察を実施

流通の転換

- 令和5年度事業において実施できなかったヨーロッパ向けの複数業者とのリーファーコンテナ（冷蔵）混載輸送試験を実施
 - ①複数業者の輸出品を1社へ集約、保管⇒まとめて港へ輸送⇒輸出用リーファーコンテナへ混載して輸出する方法を検討し、国内外への輸送費の削減効果を検証
 - ②国外への輸出について、コンテナの温度帯や輸送時間による品質維持程度について検証

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(奈良県)

実施主体名	奈良県
参画事業者	奈良県、県内イチゴ生産団体、奈良県農協、大果大阪青果、大阪中央青果、仲卸、流通事業者
対象品目 対象国・地域	いちご：台湾等 柿：タイ等

推進体制の構築

- 出荷団体ごとに、生産から販売まで一貫通貫した推進体制を構築
- 輸出支援 P F 等と連携して新たな輸出先国でのプロモーションを実施

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
いちご	9.3	33
柿	0	1.5

生産の転換

- ＜いちご＞
- 生物農薬等を活用し、化学農薬の使用を抑えた生産体系の実証を実施するとともに、県の普及指導員や農業研究開発センターの研究員による現地支援体制を確保
 - 本事業で活用した生産モデルをベースに、台湾向け防除暦を作成するとともに、台湾向け防除暦を活用した他国への輸出展開を実施
 - 輸出対応圃場と一般管理圃場を生産から流通まで明確に区別する体制を構築
- ＜柿＞
- タイの残留農薬基準に対応した農薬の散布体系を検討し、タイ向けの防除暦を作成
 - タイ向けりんご等の生果実輸出検疫実施要領に基づく生産園地、選果こん包施設の登録とタイ向け輸出青果物の取扱要綱に基づく、選別及びこん包に係る認定を取得。また、既に梱包施設等の認定を取得している事業者については、タイ向け輸出のサプライチェーン構築に向けた検討を推進。

流通の転換

- ＜いちご＞
- 品質維持のための包装資材等を検討
 - 関西国際空港からの空輸におけるコールドチェーンの実態調査と課題の抽出を実施
 - パレット単位での輸送のためのリパッケージ場所、混載等を調整
 - 低コストな物流ルートを構築するための集荷拠点等を検討
- ＜柿＞
- 大阪港を活用したリーファーコンテナによる輸送を実証
 - 現地コールドチェーンの実態調査と課題の抽出を実施

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(広島県)

実施主体名	HIROSHIMA Mitsu Bay Oyster協議会
参画事業者	HIROSHIMA Oysters、ファームスズキ、沖友水産、大本水産、中村牡蠣養殖場、ハマミツ海産、クニヒロ
対象品目 対象国・地域	牡蠣：EU諸国、UAE、サウジアラビア、オマーン、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム、台湾

推進体制の構築

➤これまで輸出できていなかった中東やEU等を対象に、輸出支援プラットフォーム等と連携して、デジタルマーケティング・動画作成、海外現地での商流構築、FOODEXへの出展等の販路開拓を実施

生産の転換

➤機械化が困難、むき身加工が必要で天然種苗への依存が高く安定供給に課題がある従来の養殖方式から、人工種苗を使ったフランス式のブランド牡蠣大規模生産モデルへの転換を図るため、フランスからの技術指導者招聘による生産実証を実施

流通の転換

➤広島県三津湾海域で生産された殻付き牡蠣を広島空港を活用することにより、リードタイムを短縮して輸出する流通体系を構築

➤冷凍商品について、むき身商品から海外でのニーズの高い殻付き商品への転換を図ることとし、冷凍作業をクニヒロで一括して行うことで効率化・コスト削減を図るとともに、HIROSHIMA Oystersがまとめて保管し大規模に輸出していく流通体系を構築

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
牡蠣	0	520

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(徳島県)

実施主体名	徳島県
参画事業者	徳島県、世界市場、農家ソムリエーズ及び契約生産農家、NIPPON ICHIBA（台湾、香港）
対象品目 対象国・地域	かんしょ（なると金時）：台湾、北米、欧州、香港

推進体制の構築

- 農家ソムリエーズの契約農家を中心に生産者の組合を結成し、栽培方法の統一や収穫後のプロセスの集約化等の実施に向けた体制を構築

生産の転換

- 生産者組合の圃場を「輸出向け栽培管理実証圃場」として借上げ、ロス率の低い系統の利用、機械化による栽培方法の標準化、小サイズを狙った密植栽培の実証、減農薬栽培の実証、J-GAPに基づく生産活動の記録等を実施
- 台湾向けに、昨シーズンの結果を踏まえ新シーズン用に開発した防除暦による栽培を行い、圃場巡回や栽培管理を徹底するとともに、輸出前に残留農薬検査を実施

流通の転換

- 生産者が収穫したかんしょを集荷トラックで集荷し、農家ソムリエーズの集出荷貯蔵施設に集約する体制を構築するとともに、QRコードを用いて生産者・圃場ごとに農薬管理、収穫日、集荷日等のトレーサビリティを構築
- 集出荷貯蔵施設において、洗浄、乾燥、キュアリング等の工程を一括管理することにより、品質のバラつきを抑制するとともに、強化ダンボールを開発及び梱包することによる輸送効率化の実証を実施
- 新たな市場（EU、カナダ、タイ）に向け、有機JAS認証の取得に取り組むとともに、航空便輸送試験を実施

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
かんしょ	48	91